

# St. Luke's International University Repository

## 聖路加国際大学学生の進路選択の現状と支援ニーズ： 価値観を明確にする進路選択ガイドの活用可能性

|       |                                                                                                                          |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者:<br>公開日: 2024-03-19<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 山本, 加奈子, 青木, 裕見, 小林, 京子<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="https://doi.org/10.34414/0002000171">https://doi.org/10.34414/0002000171</a>                                    |

## 実践報告

# 聖路加国際大学学生の進路選択の現状と支援ニーズ —価値観を明確にする進路選択ガイドの活用可能性—

山本加奈子 青木 裕見 小林 京子

## The Current Status of Career Choice and Support Needs of St. Luke's International University Students —Utilization possibility of the Career Choice Guide for clarification of values

Kanako YAMAMOTO Yumi AOKI Kyoko KOBAYASHI

### 〔Abstract〕

We have developed a decision-making tool to assist students at St. Luke's International University in making career choices. This aid is called "Guide to Career Choice." The research questions were following three: 1) The decision-making activities and processes that students engage in when choosing a career path; 2) The career support requirements of students; 3) The current status of support available to faculty and staff who provide career guidance to students. The results indicated that most students started their career exploration process 2 to 3 months prior to commencing their job or college search. The sources of information were the Internet and faculty advisors. Furthermore, students were seeking connections with graduates and looking for easy-to-understand information in order to make satisfactory career decisions. However, the university had not established such a support system, and this emerged as one of the top support needs of the students. Faculty and staff valued the process by which students verbalized the wishes of their career. In addition, they were trying to help students make the decision on themselves and autonomously. It is necessary to support students so that they can independently choose a career that aligns with their values. Furthermore, it is essential to evaluate the effectiveness of the support programs using decision aids.

〔Key words〕 Career Choice, Decision-Making, Decision Aids, Students, Nursing Program in Universities

### 〔要 旨〕

聖路加国際大学の学部生・学士編入生、大学院生の進路支援のためのディシジョンエイド、進路選択のガイドを開発した。このガイドの開発プロセスにおいて学生は、どのように進路選択のための活動を行い意思決定しているか、進路支援のニーズは何かを調査した。また進路支援を行う教職員も対象に、学生支援の現状を調査した。この結果、多くの学生は就職・進学活動が始まる2-3ヶ月前から本格的な活動を開始し、インターネットやアドバイザー教員等からの情報収集を行い就職・進学先を決定していた。納得した進路決定のために卒業・修了生とのつながりと情報提供を求める学生が多かったが、そのシステムが構築されておらず支援ニーズの上位に挙がった。教職員は、学生がやりたいことを言語化するプロセスを大事にしており、学生自身が意思決定できるように工夫していた。今後、学生が自分の価値観を明確にできる進路選択のガイドが活用され、主体的な進路選択ができるよう支援し、その効果を評価することが課題である。

## 〔キーワード〕 進路選択, 意思決定, デシジョンエイド, 学生, 看護系大学

### I. はじめに

聖路加国際大学では、学部生・学士編入生、大学院生の就職・進学のための専門的な支援センターがない。これまで学生が進路選択のための活動をどのように行っているか、その現状は不透明であった。2022年より大流行したコロナ感染症の影響で、大学の臨地実習のほとんどが中止となり学内演習や遠隔実習に切り替わったこと、就職先の施設においてインターンシップや施設見学の中止が継続した。これらの影響を受け、学生は進路選択を難しく感じ支援のニーズを高めている。これらは、学生が自分の進路について十分に検討ができていないこと、また進路に関する意思決定の方法が理解できていない可能性があることが要因と考えられる。また、学生支援を行う教員も学生の支援ニーズの高さや多様さに対して課題を感じている。学生が、自分の進路について自己の特性を踏まえた上で、関心領域を見つけて納得した進路決定のための自律的な活動をサポートする必要性は高い。

この状況を受けて、2022年度に聖路加国際大学の学生のための進路選択ガイドを開発した。看護学生にとっての進路選択の意思決定は、難しい意思決定の1つであり、この進路選択ガイドは、進路選択の意思決定をサポートするためのものである。進路選択ガイドを学生にとって

有用なツールとすることを目的に、学生の進路選択のための活動や教職員の学生支援の現状を理解するための調査を行なった。その結果を報告する。

### II. 開発した進路選択ガイドについて

進路選択のガイドは、Ottawa Personal Decision Guide For People Making Health or Social Decision<sup>1)</sup>の日本語版<sup>2)</sup>をベースに聖路加国際大学の教員有志メンバーにより試作版を作成<sup>3)</sup>し、その後、内容適切性評価を実施し改訂した。デシジョンエイドの特徴には、選択肢を並べてそれぞれの長所や短所を比較する一覧表を自分で作成し、選択肢における価値観を明確にしていくプロセスがある。長所だけでなく短所も評価し、選択肢に優先度をつけていくことで、選択の決定を支援する。

進路選択のガイドの一部を図1に示す。進路選択のガイドは、STEP1: 決めるべきことを明らかにする、STEP2: 選択肢を知る・比較する、STEP3: 決めるべきことを検討する、STEP4: 決定するために必要なことを確認する、STEP5: 決める、の5つのSTEPで構成されている。この進路選択ガイドは、2023年2月に発行し紙ベースと電子ブックにより学生に配布、公開している。

**STEP 3 決めるべきことを検討しましょう**

選択肢を記入して、それぞれの長所（メリット）と短所（デメリット）を挙げてみましょう。そして、あなたにとっての重要度も考えてみましょう。

**知識**  
選択肢を挙げ、それぞれの長所、短所を記入して下さい。

**価値観**  
それぞれの長所や短所はあなたにとってどのくらい重要ですか？星（★）の数で評価して下さい。

**自信の程度**  
星（★）の数が多く長所が含まれている選択肢を選ぶようにしましょう。星（★）の数が多く短所が含まれている選択肢は避けるようにしましょう。

|                      | 長所・メリット<br>(その選択肢を選ぶ理由) | 重要度<br>0 (全く重要でない)<br>5 (大変重要) | 短所・デメリット<br>(その選択肢を選ぶ理由) | 重要度<br>0 (全く重要でない)<br>5 (大変重要) |
|----------------------|-------------------------|--------------------------------|--------------------------|--------------------------------|
| (例) 選択肢<br>A 病院に就職する | プリセプタージュの充実             | ★★★★☆                          | キャリアアップ体制                | ★★★★☆                          |
|                      | 希望の部署がある                | ★★★★☆                          | 療費が高い                    | ★★★★☆                          |
|                      | 有給取得率が高い                | ★★★★★                          | 雰囲気（先輩がいない）              | ★★★☆☆                          |
| 選択肢 1                |                         | ☆☆☆☆☆                          |                          | ☆☆☆☆☆                          |
|                      |                         | ☆☆☆☆☆                          |                          | ☆☆☆☆☆                          |
|                      |                         | ☆☆☆☆☆                          |                          | ☆☆☆☆☆                          |
| 選択肢 2                |                         | ☆☆☆☆☆                          |                          | ☆☆☆☆☆                          |
|                      |                         | ☆☆☆☆☆                          |                          | ☆☆☆☆☆                          |
|                      |                         | ☆☆☆☆☆                          |                          | ☆☆☆☆☆                          |
| 選択肢 3                |                         | ☆☆☆☆☆                          |                          | ☆☆☆☆☆                          |
|                      |                         | ☆☆☆☆☆                          |                          | ☆☆☆☆☆                          |
|                      |                         | ☆☆☆☆☆                          |                          | ☆☆☆☆☆                          |
| 選択肢 4                |                         | ☆☆☆☆☆                          |                          | ☆☆☆☆☆                          |
|                      |                         | ☆☆☆☆☆                          |                          | ☆☆☆☆☆                          |
|                      |                         | ☆☆☆☆☆                          |                          | ☆☆☆☆☆                          |

現時点ではどの選択肢がよいと思いますか？ ○をつけてみましょう。

選択肢 1   選択肢 2   選択肢 3   選択肢 4   決められない

図1 進路選択ガイドー私たちの将来の意思決定ー (STEP3)

### Ⅲ. 方 法

#### 1. 目 的

聖路加国際大学の学部生・学士編入生、大学院生が進路選択のために行なっている活動の現状や大学への支援ニーズと、教職員が実際に行なっている支援内容について明らかにする。この調査は、進路選択ガイドの開発プロセスの1つとして実施した内容適切性評価研究の1部である。

#### 2. 対象者と手続き

対象学生は、聖路加国際大学の学部生、学士編入生、大学院修士2-3年生の30名程度とした。対象条件は、すでに進路が決定していることであった。対象者の募集は、メールと学内掲示板でのポスター案内により実施した。学生個々が調査に関する案内を読み、協力したいと思った場合に研究者に個別に連絡をしてもらった。その後、個別に調査についての説明を行い、同意が得られた場合に調査の協力を得た。

また、聖路加国際大学の教職員にも協力を得た。聖路加国際大学の学生への進路選択の支援を実施した経験のある人を条件に、10名程度に機縁法で個別に協力を依頼した。この調査は、調査票を用いた調査のあと、個別のインタビュー協力が得られる対象者には、後日30分程度のインタビュー調査を実施した。この協力の意思是、調査票の回答で確認した。

#### 3. 調査項目とデータ収集方法、分析

調査項目は、学生が実際に進路選択のための活動を行なった時期や方法、意思決定までのプロセス、現在の意思決定に関する葛藤の有無、大学に対する進路選択支援に関するニーズを確認した。また、学年、すでに決定している進路も調査した。教職員に対しては、学生支援を行う際に工夫していること、進路支援を行ってきた経験年数を調査した。対象者には、調査説明書と同意書、試作版の進路選択のガイド、調査の回答用Webリンクを渡した。このとき、試作版の進路選択のガイドにID番号を振り、回答時にID番号も記載するように依頼した。

対象者には実際に試作版の進路選択のガイドを使用してもらい、その後調査票の回答をするように依頼をした。回答後、対象の学生には実際に書き込んだ進路選択のガイドを聖路加国際大学内に設置した回収箱に投函するよう依頼した。また、インタビュー調査の協力の意思を表明した対象者には、個別に日程調整を行い、オンラインか対面により30分程度インタビュー調査を行った。この調査は、2022年10月から2023年3月の期間に実施した。

得られた数値データは単純集計し、自由記述やインタビューの内容は、意味内容に従い分類し類似性のあるもの

のを整理してカテゴリ化した。

#### 4. 倫理的配慮

この調査は、聖路加国際大学倫理審査委員会の承認を得て実施した(22A-061)。

### Ⅳ. 結 果

学部生14名、学士編入生7名、大学院生9名、教職員10名より調査票の回答を得た。このうち、インタビュー調査の協力を得た学生は22名(73.3%)であった。対象学生の進路は、就職が25名(83.3%)、進学が5名(16.7%)であった。対象教職員の進路支援を行なった経験年数は平均で6年であった。

#### 1. 進路選択のための活動

対象の学部生のほとんどが、進路選択のための活動を3年生の2-3月から開始していた。一方で学士編入生では、入学時の早期から進路選択について選択肢を知り、理解するための準備を始めていた。大学院生では、修了後は元の職場に戻ることがすでに決まっている対象者を除いて、修了年の4月ごろより進路選択の活動を始めていた。

活用したツールについて、複数選択で回答を得た(図2)。最も多かったのは教員への相談であり27名(90%)であった。ついで、インターネットの検索24名(80.0%)、就職・進学の専門サイトの活用(73.3%)であった。聖路加国際大学では、学部生・学士編入生を対象に大手人材・広告企業を招いて年3回程度実施しているが、この就職・進学説明会へ参加した経験のある人は8名(38.1%)であった。受験数では、就職を希望する対象者では、平均2.1(範囲:1-5回)施設受験のための準備をしていた。進学では、1名を除き1校のみ受験していた。意思決定の仕方では、自分自身で決定した人が最も多く25名(83.3%)、ついで、家族に相談し家族の意見も聞きながら自分で意思決定した人が5名(16.7%)であった。家族や教員など他者の意見に従って意思決定した人はいなかった。対象者の中には、第一希望の進路に決定しなかった対象者も含まれた。これらの対象者はみな、第一希望の進路が不合格になった後、改めて自分が将来どのようなことをしたいと考えているのかを問い直し、進路を再考するプロセスを経験していた。

#### 2. 学生の進路支援のニーズ

学生が大学に対して希望する進路支援のニーズを表1に示す。多くの学生が表明したニーズは、進路支援のための専門窓口があること、情報収集のしやすさ、卒業生・修了生とのつながりであった。情報収集のしやすさでは、特に学士編入生のニーズが高く、manabaやrespon、キャ



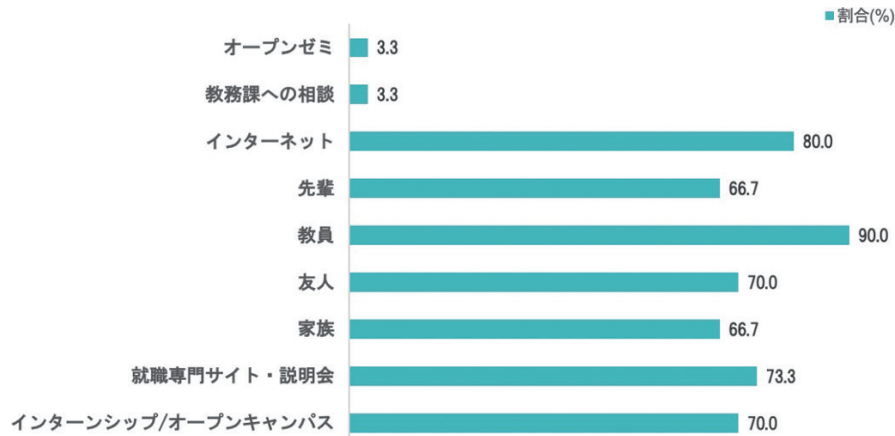


図2 学生が進路選択のために活用したツール

表1 学生の進路支援のニーズ

| カテゴリ              | 記述                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専門窓口の設置           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職・進学相談ができる専門の窓口があることで、気軽に相談ができる。</li> <li>・アドバイザー教員は決まっているが話したことがない教員や自分の関心のある領域が専門でないと相談に繋がらない。</li> <li>・アドバイザー以外に相談したい時、他の教員に相談しにくく専門窓口が必要。</li> <li>・専門担当者にエントリーシートや履歴書、小論文などを添削してもらいたい。</li> </ul>               |
| 情報収集のための窓口の分かりやすさ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いちから進路を考える場合、大学で提示されている情報源にたどりつけない。</li> <li>・Webなどでそこから自分が収集したい情報源にたどりつけない。</li> <li>・情報収集に非常に時間を取られる。</li> <li>・関心のある領域の話聞くために、どの教員に話を聞けば良いか分からない。</li> <li>・学内のガイダンスや情報源の多くがメール案内のため、情報収集しにくい（受信数が多すぎる）。</li> </ul> |
| 卒業生・修了生とのつながり     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に就職している先輩の話聞きたいが、誰に相談していいか分からない。</li> <li>・インターンシップに参加できない場合、自分が就職先に考えている施設情報の実情を理解するのが難しく、先輩を紹介して欲しい。</li> </ul>                                                                                                    |
| キャリアに関する情報に触れる機会  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・明確に自分のキャリアプランが決まっていないこともあり、進路の選択肢が広がるように卒業生や修了生のキャリアを知る機会が欲しい。</li> <li>・助産や公衆衛生のような学部生も参加しやすい修士・博士課程のオープンゼミがあるといい。</li> <li>・どの時期から進路選択のための活動を始めれば良いのか分からなかったため、入学時や低学年時から進路選択についての説明が必要。</li> </ul>                  |

ンパスプラン、学内Webなどで、Googleなど大学が導入しているシステムが様々でありどこに何の情報があり、どのような場で使うのか理解するのに非常に時間がかかり、情報を得にくい現状があると全員から意見が挙がった。また、就職・進学に関する情報提供方法として、メールでの案内が中心であり情報の得にくさを感じていた。卒業生・修了生とのつながりは、学生が就職・進学を希望する施設や学校にいる先輩から話を聞き、情報を得たいというニーズがあった。さらに、自分自身のキャリアを考える上で、専門的な資格や就職先の選択肢など早期から理解するためのシステムや修学プロセスの中で進路選択のための活動をするためのモデル（時期や内容など）の提示が欲しいというニーズも挙がった。

### 3. 進路選択ガイドの使用について

試行版の進路選択ガイドを実際に対象学生に使用してもらった結果、最も多く挙がった意見はガイドに書き込

みを行うことで自分の考えを言語化し、視覚化できる利点であった。ガイドの価値観を書き込むページでは、自分が想定していなかった項目も検討するきっかけになり、自分の価値観に気づくきっかけに繋がったり、希望する施設や学校を俯瞰的に判断することができるといった意見もあった。また、ガイドに書かれてある情報を確認しながら自分の思考を整理する中で、次はどのような情報を集め、行動すればよいのかが分かる点も好評であった。また、入学時からガイドを手に取り、ガイド使用のための手引きや説明会とともに活用できることで自分の進路の選択肢が増える可能性を感じた学生もいた。

### 4. 教職員が学生へ行う進路支援の現状

教職員が学生の進路選択の支援を行う際に活用しているものは、インターンシップやオープンキャンパスに参加することを勧めること、インターネットを活用することが上位に挙がった（図3）。また、教員個々が持つ卒

業生や修了生とのつながりを活用し、学生とつながることも行なっていた。

さらに、教職員が学生の進路支援を行う経験から工夫していることや意識していることについて表2に示す。多くの教職員が、学生自身が意思決定することができるように関わることを意識していた。また、就職や進学活動が開始する年度からの活動開始では遅いと考え、より早い時期から学生に進路選択の活動を促すことも意識していた。一方で、学生の進路支援が年々複雑にかつ難しくなっていることを実感しており、教員個々の力量に任せた支援を負担に感じることや専門の担当者配置を希望する意見も挙がった。

Ⅳ. 考察と課題

本調査により、学生が進路選択のために活用するツールとして教員を選択する人が最も多く、これは聖路加国際大学の特徴の1つと言える。先行研究の多くは、就職・進学ガイダンスや説明会が活用されるツールの上位を占めている<sup>4,5)</sup>。しかし、本調査の対象者では、大学で開催する就職ガイダンスへ参加している人は少ない状況であった。これは、コロナ禍であり外部の説明会への参加を学生が控えていた可能性があることや、大学の講義や演習・実習がオンラインで実施される機会が増えたことに加え、説明会もオンラインで聴くことへの疲れや関

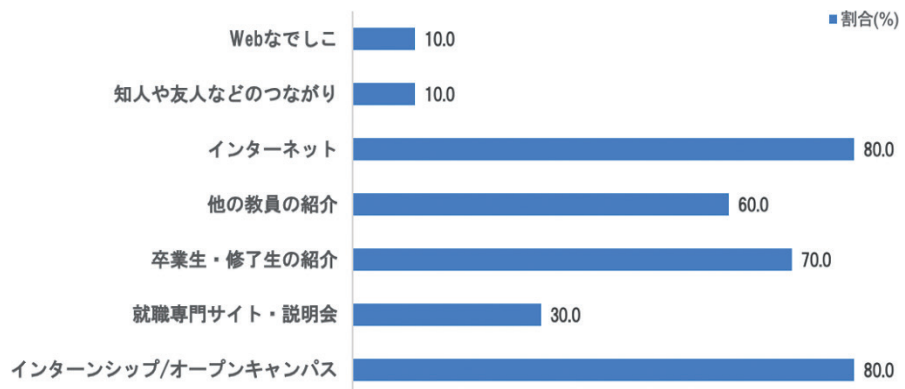


図3 教職員が進路選択のために活用したツール

表2 教職員が学生の進路支援を行う上で工夫や意識していること

| カテゴリ                         | 記述                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学生の考えを話してもらい、聞く              | <ul style="list-style-type: none"><li>・学生が希望する進路となぜ希望するかの理由についてよく話しを聞いた上で、必要があれば助言する。</li><li>・支援開始時に何をどこまで自分で調べたかを学生に述べてもらい、次にやるべきことは何かを面談終了時に確認し、自分で活動を継続できるようにする。</li><li>・どのような選択肢を考え、一番進みたい方がどちらなのかを聞く。</li><li>・志望施設候補があるが理由が不明瞭な学生には共通項を探し言語化できるように促す。</li></ul>                                                                                                                                                                         |
| 学生の進路の選択肢を広げるような情報提供をする      | <ul style="list-style-type: none"><li>・新卒は大学病院で入職して技術を身につけなければいけない、というこだわりから解放できるように対話を通して伝える。</li><li>・学生の関心のある分野の専門家（教員）に話を聞けるようにつなぐ。</li><li>・学生のやりたい内容と就職先がミスマッチしていることも少なくないため、その場合は素直に自分の意見を伝える。</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                 |
| 進路選択のための活動方法を伝える             | <ul style="list-style-type: none"><li>・自分がどんなことを大切に看護をしたいと思っているかと、就職したい病院が何を大切にしたいと掲げているか、重なるところを説明できるようにするといと伝える。</li><li>・アドバイザー会で4年生の先輩を必ず集め、進路の決め方や時期に後輩に可能な範囲で経験を共有してもらう。</li><li>・病院、大学院を選択する際も、4年生になったら就職活動が始められるように早い段階からの準備をするよう伝える。</li><li>・学生の生活拠点を確認した上で、学生の興味のある分野に進めるように心がけている。</li><li>・どうすれば、学生が知りたい情報が得られるのか具体的な行動を伝える。</li><li>・第一志望が叶わなかった際の選択肢についても、予め考えるよう勧める。</li><li>・志望施設のデメリットについて検討すべき項目を伝え情報収集を自分でするよう促す。</li></ul> |
| 学生自身が意思決定できるように支援する          | <ul style="list-style-type: none"><li>・あなたが決めていい、というメッセージを学生に伝えるように心がけている。</li><li>・学生は就職先のネームバリューで選択するのか、自分のやりたい内容を重視して就職先を再検討するのか自分で意思決定してもらう。</li><li>・どんなに準備をしたとしても必ず合格できるわけではないので、後悔がないような受験や進路選択ができるように後押しする。</li><li>・後悔のない就職・進学の活動ができるように、自分で決めてもらう。</li></ul>                                                                                                                                                                          |
| 就職・進学した後のこと（キャリアを含め）も考えて助言する | <ul style="list-style-type: none"><li>・絶対にここでないといふ！というあまり強い願望は持たないほうが楽じゃない？という気持ちになってもらう。</li><li>・進学した後、どのような就職先を考えているのかということまで事前に考えてもらう。</li><li>・キャリアプランについて就職・進学前に考えておくことは試験の対策にもつながると思うので、5年先までのプランを考えるように伝えている。</li></ul>                                                                                                                                                                                                                 |

心の低下も推察される<sup>6)</sup>。さらに、聖路加国際大学では学生と教員間をアドバイザー制度で繋ぎ、学生がいつでもアドバイザー教員に相談できる仕組みができています。このシステムの活用が進んでいることも要因の1つではないかと考えられる。単科大学である強みとして、学生と教職員の距離が近く学生が教職員に相談しやすい環境にある。歴史のある看護大学であることから教員も、自分自身と関わりがあった卒業・修了生を紹介したり、内部の教員とつなぎ学生のニーズを満たす支援がより充実した内容になりやすいことも推察される。

一方で、進路支援の方法が大学や教員が主体となった活動に偏っている可能性もある。学生自体は、自分で情報を収集したい、進路選択の活動を進めたいという意思を持っていることから学生主体の進路選択の活動にシフトしていくことも今後の課題である。このためには、学生と卒業・修了生との縦のつながりを強化させ、ネットワークを構築していくことが必要である。また、看護系学校のカリキュラムは、講義や実習・演習が多く時間的ゆとりは少ない傾向にある。自分が実習で得た学びを十分に消化しきれないまま就職活動が始まり、流れるように同法人の病院や先輩が多く就職する施設を受験する学生も少なくない。大学や教員は、学生が相談にきたいときにいつでも支援できる準備があることを伝えるだけでなく、早期から大学を卒業・修了した後の進路について考える機会を提供し、主体的な進路選択の活動を進めていくことを促していく必要がある。これらは、学生が大学での主体的な学びの中で、自分自身の進路を考え、関心領域を深め広げていくプロセスの1つにもなる。また、大学院生にとっての進路の選択肢は学部生・学士編入生以上に多岐にわたり<sup>7)</sup>、自律的に進路選択のための活動をする力がより必要になる。インターネット、ソーシャルネットワークの普及により情報過多の中ではあるが正しい情報を選択、収集しながら自分の価値観に合った進路選択に繋げていくことが重要である。そのプロセスにおいて、価値観を明確にするための進路選択ガイド<sup>3)</sup>を活用することは有用であると考え。基礎教育のころからのキャリア形成支援や教育を進めていくこと<sup>8)</sup>で、学生が継続教育へ移行するプロセスにおいても主体的な進路選択を進めていく力を育んでいけるように支援していく必要がある。

## V. おわりに

進路選択に対するゴールは進路が決定し、就職や進学ができること自体にあるわけではない。また、卒後すぐに退職・退学することが必ずしも失敗とも限らない。大

学生生活を通してさまざまな経験と価値観に触れ、自分の価値観にも目を向けながら進路を意思決定し、その都度自分自身が納得した意思決定ができることが重要である。大学や教員は、入学後の早期から学生が自分自身のキャリアを考えてみるきっかけを提供することや、わかりやすい情報発信を行い学生の理解を深めるためのサポートを行いながら意思決定を支援していく必要がある。また、進路支援の経験が長い教員のサポートの方法が言語化され、共有されていくことで学生支援が充実していくことが期待される。さらに今後、学生や教員に進路選択ガイドが活用され学生が自分らしい進路を意思決定できるか、有効性も評価していくことが課題である。

## 謝 辞

本調査は、2022年度の聖路加国際大学教育改革推進事業費の支援を受けて実施した。進路選択のガイドの内容適切性評価に協力いただいた学生と教職員に心より感謝申し上げます。

## 引用文献

- 1) Ottawa Hospital Research Institute. Patient Decision Aids Personal decision guide. [Internet]. <https://decisionaid.ohri.ca/decguide.html> [cited 2023-10-12]
- 2) 日本語版オタワ個人意思決定ガイド2015年版(2019/10 翻訳修正) [Internet]. [https://www.clg.niigata-u.ac.jp/~arimori/kaken/?page\\_id=99](https://www.clg.niigata-u.ac.jp/~arimori/kaken/?page_id=99) [参照2023-10-12]
- 3) 山本加奈子, 青木裕見, 小林京子. 看護系大学卒業・大学院修了後の進路選択のためのデシジョンエイド開発. 聖路加国際大紀要. 2023;9:957-62.
- 4) 大塚真代, 古米照恵, 藤野文代. 看護大学生の進路選択に影響する情報と支援ニーズ 卒業を間近にした看護学部4年次生への調査. ヒューマンケア研会誌. 2013;5(1):73-77.
- 5) 小栗祐子, 奥宮暁子, 田中博子ほか. 看護学生の就職先選択の傾向と特徴 初年度卒業生の就職先選定に着目して. 帝京科学大紀要. 2018;14:245-250.
- 6) 吉武尚美. オンライン授業における大学生のZoom疲れの検討. 日健心第34回大会. 2021:39.
- 7) 亀岡智美, 上國料美香, 外崎明子ほか. 政策医療を担う医療機関に就業する看護職者の大学院進学への意向 キャリア発達支援に向けて. 国立看護大研紀要. 2020;19(1):36-43.
- 8) 厚生労働省. 平成28年度 大学等におけるキャリア教育実践講習 [internet]. <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11800000-Shokugyounouryoku-kaihatsukyoku/0000148395.pdf>. [参照2023-10-12]